

# 獨協医学会

会 長 稲 葉 憲 之 (獨協医科大学学長)

## 運営委員会委員

簀持 淳*	石光 俊彦**	秋山 一文	阿部 七郎	安西 尚彦
石井 芳樹	黒須 明	桑島 成子	小島 勝	小嶋 英史
小林 哲	鈴木 純恵	田中 康広	千種 雄一	土岡 丘
中元 隆明	西山 緑	濱口 眞輔	春木 宏介	平林 秀樹
前川 正夫	緑川由紀夫	宮本 智之		

\*委員長 \*\*副委員長

## Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光 俊彦*	千種 雄一**	阿部 七郎	安西 尚彦	石井 芳樹
小島 勝	田中 康広	濱口 眞輔		

\*委員長 \*\*副委員長

## 編集事務員

鯉沼 行子

## 編 集 後 記

Dokkyo Journal of Medical Sciences Vol. 41, No. 3 (獨協医学会雑誌 第41巻3号)をお届け致します。今回は原著2編、症例報告1編、通信1編です。特集はいつの時代でも古くて新しいテーマである「アレルギー免疫治療の最新の進歩」です。基礎医学の橋口先生(免疫学)と松野先生(解剖学)に始まり、臨床各科の「アレルギー免疫」を専門とする様々な先生方による治療に関する最新の話題をご提供頂きました。ご執筆頂きました先生方に心よりお礼を申し上げます。

今年も残す所3ヶ月となりました。この編集後記を執筆している時に、予想出来ない大惨事のニュースが飛び込んできました。9月27日の長野県と岐阜県にまたがる御嶽山(3067メートル)の噴火です。現在登山者ら47人の死亡が確認されており、1991年に43人が犠牲になった長崎県の雲仙・普賢岳噴火以来の惨事となりました。

巨大な噴煙が轟音を響かせ、もうもうと立ち上り、岩と火山灰が多く登山客を襲う様子が、噴火直後から登山者らが自ら撮影した映像を公開する動画投稿サイト「YouTube」にアップされ、現場の緊迫した様子がインターネット上で明らかになっています。

08年12月には、文科省が御嶽山を含む12火山について「研究しにくい、活動性が低い」として監視態勢を縮小し、09年9月の政権交代後も「事業仕分け」などで火山の監視態勢について議論されたものの、御嶽山は大学による観測強化の対象とはならず、今回の御嶽山噴火は気象庁だけでは予測が難しかったと伝えられています。

この約1ヶ月前の8月には広島市北部で局地的な豪雨による大規模土砂災害が発生し、74名の犠牲者が出ていました。

外国に目を移せば、西アフリカで流行するエボラ出血熱による死者が3,000人を越えたと伝えられています。

さらに経済に目を移せば、国内では今年4月の消費税引き上げにより4-6月期GDPは実質6.8%減となり予想以上に景気への影響が大きいことが指摘され、来年10月に控えた10%への引き上げを懸念する声も出て来ております。

国内外がどことなく重苦しい雰囲気にも包まれる中、9月テニスの全米オープン準決勝で、日本の錦織圭が世界ランキング1位のノバク・ジョコビッチ(セルビア)を下し、アジア出身の選手として初のグランドスラム決勝に進出したという歴史的快挙には大変勇気づけられました。さらに私事ですが、本年7月に私が研究代表者として応募致しました平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「トランスポーター科学に基づくホウ素中性子捕捉療法BNCT用新規増感化合物開発」(総予算1.2億円)が採択となりましたことは、研究機関としての獨協医科大学が認知されたことを意味しており、本学に身を置くものの一人として、大変光栄なことと感じております。本プロジェクト採択の重みを感じながら、その遂行に全力を挙げ成果を上げる事で、私の目標としております「栃木から世界へ、獨協から世界へ」の実現に少しでも近づき、少しでも皆に元気を与えたいと願っております。

その時々、環境の変化に順応しながら、目の前の課題を確実に解決しつつ、遠い先の夢を育てて行く。常に訪れる予期せぬ事態を、前向きな気持ちで受け止めて、皆で未来に向けて進んで行きたい、そう感じる今日この頃であります。

(安西尚彦)

2014年10月20日印刷

第41巻 第3号

2014年10月25日発行

編集発行人

獨協医学会

稲葉 憲之

発行所

獨協医学会

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地  
獨協医科大学

Tel (0282) 86-1111 (内線2009)

製 作

教 文 堂

〒162-0804 東京都新宿区中里町27

Tel (03) 3260-6136